

# 所有物妨害除去請求権についての一考察-私的利益 における妨害除去手段研究序説-

著者	小川 保弘
号	3
学位授与番号	法博第12号
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10097/14189">http://hdl.handle.net/10097/14189</a>

小 川 保 弘  
お がわ やす ひろ

学位の種類 法 学 博 士  
学位記番号 法 博 第 1 2 号  
学位授与年月日 昭和 4 8 年 3 月 2 7 日  
学位授与の要件 学位規則第 5 条第 1 項該当  
研究科専門課程 東北大学大学院法学研究科  
(博士課程)私法学専攻  
学位論文題目 所有物妨害除去請求権についての一考察  
—— 私的利益における妨害除去手段研究序説 ——  
論文審査委員 (主査)  
教授 広 中 俊 雄 教授 鈴 木 禄 弥

## 論 文 内 容 の 要 旨

本論文の内容は概要つぎのとおりである。

第 1 章： 所有物妨害除去請求権については、請求権内容の解釈論の展開にあたって「財貨帰属秩序」そのもの(所有権)ないし「所有権の本質」から説きおこす学説が多い。しかし、提出者によれば、これは疑問であり、その請求権内容は「妨害除去に要する労力負担・費用負担を当事者間にどのように配分するのが妥当か」という意味での妥当性判断の角度から決定されるべきものである。

第 2 章： ドイツでは、請求権内容の解釈論を、その請求権が問題となる諸種の社会事象に即して展開している。提出者は、このような解釈論を参照することが有益であるとの観点に立ち、社会事象の類型化を基礎としつつドイツにおける請求権内容の解釈を概観する。

第 3 章： 請求権内容解釈論の出発点についての第 1 章所述のような考え方を基礎にすえ、第 2 章におけるドイツでの請求権内容解釈論の概観から示唆された三つの「帰責観点」すなわち「行為責任」の観点、「状態責任」の観点および「状態債務的責任」の観点をふまえつつ、提

出者は、日本における従来の請求権内容解釈論を検討し、試論を展開する。提出者の意図は、具体的な社会事象の諸類型をじゅうぶん念頭におかないまま請求権内容解釈論を展開しているとみられる日本の従来の解釈論の弱点を克服することに向けられている。

第4章： 以上の展開の総括がなされている。

## 論文審査結果の要旨

本論文は、日本の民法典に明文の規定がないため解釈が分かれている所有物妨害除去請求権の内容につき、ドイツにおける判例・学説を参照しつつ検討を加え、解釈論を展開したものである。克明な研究であり、特にドイツ法の解釈を整理した部分には新しい知見が認められる。よって本論文を博士の学位論文として適当なものと認める。